

高田本山だより

発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



法然上人(左)に相見する親鸞聖人(右)。
聖人は比叡山の僧の姿で描かれている。
『親鸞聖人伝絵』(重文)

止める勇氣と 乗り越える信念

法嗣 常磐井 慈祥

およそ半世紀ぶりの政権交代が実現し、民主党政権が始動した。新政権の今後はまだまだ前途多難が予想されるが、内閣支持率は依然として高い。新政権の評価については、早くも賛否両論様々であるが、私は新政権の「止める勇氣」については大いに評価したい。「止める勇氣」とは、必要性の疑わしいダムや空港や道路などの建設が当然のようにまかり通り、莫大な国費が投入されて来たが、それを根本的に見直そうとするものである。着工済みの事業、着工決定済みの事業は無条件で竣工まで推進しなければならぬ、そう思い込まされて来た私共の意識が必ずしも正しくないことを再認識させられたように思う。むしろ、そのような事業に固執せず、それを乗り越える新たな方策を模索することの方が遙かに重要かつ有効なのではあるまいか。また、完成し

た施設の維持管理には今後多年に亘って莫大な経費が必要であることを忘れて、それまでの投入費用が無駄になると錯誤する人も多いようであるが、前政権下での利権絡みの無計画・安易な着工こそが責められるべきであろう。

清純派と見られていた女優が実は薬物中毒に近い状態だったことが知れ、国内外に大きな波紋を与えた。彼女の場合も、安易な「着工」を許し、「止める勇氣」と「乗り越える信念」のいづれをも持たなかったために起きた悲劇そのものではなからうか。彼女がその失墜した信用を取り戻し、再起するためには多大な困難が伴うであろう。

思うに、御開山聖人の御生涯は決して順風満帆ではなかった。むしろ、失敗と挫折の連続であったと言えよう。しかし、常に「止める勇氣」と「乗り越える信念」を持ち続けていた御生涯であったことは、特筆されよう。二十九歳の時、比叡山での修行を止め、真実の教えを探し求められた時の聖人の悩みと迷いは深く、切実であった。これまでに二十年間にも亘って

積み上げて来たものを一気に放り出してしまふことには少なからぬ躊躇があったであろう。しかし、比叡山で学んで来たものは、聖人にとってどうしても納得のゆく真実の教えではなく、それを甘受することはできなかったのである。

この時の聖人に「止める勇氣」と「乗り越える信念」が無かったなら、法然上人に会うこともなく、眞実信心を獲得することもなかったであろうし、その眞実の教えが後世の私共に示されることもなかったであろう。さらに、聖人は最晩年の八十四歳にして、思いも寄らぬ挫折を体験されることになる。関東門弟らとの信頼関係を大いに損ねた実の息子善鸞の義絶事件である。この事件も正に親子であることを「止める勇氣」と「乗り越える信念」のなせるものである。

この悲痛な体験を通して、聖人は揺るぎない絶対他力の境地に到達されたのであった。

人の生き方は様々であるが、決められたレールの上をまっすぐに走ることだけが正しいとは限らない。「今さら」、「この期に及んで」と、何が何でもがむしゃらに驀進するのではなく、一度止まってみる、方向転換をしてみることが大切なのではあるまいか。私が聖人の御生涯を拝察して痛感するところである。

「時の太鼓」修復と尾張御同行

前号で紹介しました享保十四年（一七二九年）銘の「時の太鼓」（津市指定文化財）は、今、破れたままの皮の張替と胴のメンテナンスのため、愛知県の津島に運ばれて修復されています。なにしろ、太鼓門が三層の楼門に改修された幕末の文久元年（一八六一年）以来、この太鼓は最上階には大きすぎて吊ることが出来ずに降ろされたまま、一五〇年もの歳月を過ごしてきましたので、皮は破れ、胴には大きな亀裂が走り、内部にはホコリが溜まって惨めな姿でした。

太鼓門と同様、往年の姿に戻らないものかと思いつつ記事を書きましたが、早速に、津島市内の堀田新五郎商店さんから修復の申し出がありましたので、お訪ねして太鼓の話を



太鼓皮の仮締め

うかがいました。お店は現在の御当主が第二十六代目という太鼓製造の老舗で、伊勢神宮で舞楽に使用される大太鼓をはじめ各種太鼓の製作と修復を手がけておられます。棟の高い広々とした作業場には、本山の太鼓（直径三尺六寸）より更に巨大な直径



修理中の太鼓銅（鉦穴と欠損部分の埋木）

五尺三寸の太鼓が設置されていますが、「時の太鼓」のように三百年近くもの時を過ごし

てきた太鼓の修復は大変珍しく、この胴は今では手に入らない高価なケヤキ材で作られているとのこと。また、「享保十四歳」と書かれています。部分が少ない盛りがついています。これは、製作の当初は胴の表面全体に黒漆が塗られていたからだそうです。それに、皮を張り替えた後は、製作当初と同様に打ち鳴らすことが可能とのこと非常に驚きました。今回の修復過程で、太鼓の胴内に



太鼓内上部、製作者住所「尾州名古屋押切町」「永代」



太鼓製作日付「享保十四年 酉九月吉日」



太鼓内下部、製作者銘「…押切町、平野 小市郎(花押) 市郎兵衛」



太鼓修理日付「天明二歳 壬寅十月吉日」

堆積したホコリを除いていたところ、全面に、「尾州名古屋押切町」「永代」「平野 小市郎(花押)」「同、市郎兵衛」「享保十四年九月吉日」という製造当時の銘や、「天明二歳壬寅十月吉日」などの修理銘が墨書されていることが発見されました。最初に訪問したときは、写真のようにすでに太鼓口に皮が当てられて仮締め状態でしたので、一週間後に再度お訪ねして胴内の墨書きを撮影してきました。

この「小市郎」という人は、寛延三年（一七五〇年）九月二十三日の『御堂日録』に「施主、尾州御末寺、名古屋 来迎寺下、小市と申す者」と記録されていますが、今回の墨書き

発見によって、この日録の「小市」という施主が尾張の太鼓屋さんであったことも判明しました。堀田新五郎さんはこの名古屋押切の太鼓屋さんについてもよくご存じでした。堀田さんには、修復と同時に、太鼓の架台も新調していただいています。本山へ戻してからはせいぜい参詣の皆さんに叩いてもらうことが、この張り替えたばかりの太鼓にとって一番よいことだと話しておられました。

来年の報恩講や五月の御影堂慶讃法会には、御影堂に展示して披露されることになると思いますので、御参詣の際には是非とも「時の太鼓」の迫力を体験してみてください。
(宝物館主幹 新 光晴)

リレー法話

「ご恩」をいただく

真置 信海

最近ホットする本になかなか出会うことがないなか、『満ちる恩・そのころ』という一冊の本に出会いました。私にとってほんとうにホットする一冊であります。

幼少のころよりご不自由なお体を抱えつつ聞法を重ねた北海道にお住まいの柴田隆幸さんと宗教哲学者・僧侶である大峯顕先生のコラボレーションでの一冊であります。

「一杯の いただくご飯に満ちる恩」があります。柴田さんの歌に寄せて大峯先生が味わい深い解説文を添えています。

それには『「四恩」という仏語があります。私たちが受けている「父母の恩」「衆生の恩」「国王の恩」「仏法僧の恩」の四つのことです。「一切衆生はこれ我が四恩なり」という言葉もあります。私たちの只今のこのいのちは、私以外のすべてのもののご恩によって生かされているということなのです。

いま私が頂く一杯のご飯にそのご恩が満ち満ちているのですよ」とお示しでございます。

自坊のある曾原地区では、今年も黄金色の稲穂が沢山実り、収穫を終えられました。早々にお仏飯にと新米を戴きました。新米のその輝きにお仏飯をお供えさせて頂きながら、昔母より聞いたことを思い出します。

「お米はなあ、お百姓さんが一生懸命作ったんだよ。そしてまたお仏飯をお供えさせて頂けることは、この私が今日もご飯を頂けることなんだよ」と云いながら、お仏飯を盛りつけるとき、一粒のご飯粒が手についても絶対に口に入れることはありませんでした。その姿は何よりも仏さまの“ご恩”を思う母の姿でありました。一粒のお米・一粒のご飯粒も無駄にしませんでした。

自坊のお同行の中で年中農作業に携わっておられる方とよくするお話があります。『この頃はもう作業も大型の機械化で、何町という田んぼの収穫作業もアットという間にできるんですよ。機械のない手作業の頃は一株一株の苗に

「苗さんなんなんだぶつ」稲穂に「稲穂さんなんなんだぶつ」と云いながら農作業してたのねえと。「お米はお茶碗に盛られたひと椀でしかないのでしょうかね」とつぶやくように云っておられました。たつたその一言に、「仏さまにお礼申してからお箸に手を付けるんだよ」とお仏壇にお参りではなく仏さまにお礼を申してというところが真宗門徒の家庭だったのにと、ふつと思ふことです。

今、私たちは「ご恩」（ありがたい・もつたいたい・おかげさま・おはずかしい）という言葉をお忘れした日々を過ごしているように思います。現代はそのような心が忘れ去られているように思います。

お米にちなんで、「しんらんさまのお田植え歌」という歌を聞いたことがあります。

「しんらんさまのお田植え歌」

五劫思惟の苗代に
兆載永劫のしろをして
一念帰命の種をまき
自力雑行の草をとり
念々相続の秋になりぬれば
このみとることこそ
うれしけれ

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

農民たちが歌を歌いながら田植えをしているが、お念仏の声がないので、親鸞聖人はご自分から田んぼに降りて、田植えの列に加わり農民たちも大喜び、田植え歌を口ずさみつつ田植えをしたという言い伝えがあります。何と尊いお歌でしょう。

お念仏の種を蒔き、お念仏が実っていく様子が、人々の心にどれほどの元気を与えて下さったことでしょうか。このお歌に限りないご恩をお喜びになる親鸞聖人のお姿が母の言葉と共にしみじみと思ひ出すことあります。

私がこの世に生まれてきたことは自分の力ではありません。なんの力もない私を生かしてくれる力・大いなる力が躍動“してはたらきづめにはたらいてくださっていることを”本願力“と申します。

「如来の本願力の”ご恩“に答えるべきお念仏を申す一日一日をお過ごしですか」と、今“親鸞聖人から問われているのではないかと思うこととでございます。

(松阪市 法性寺衆徒)

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

ご和讃のお話

松山 智光

善導大師証を請い
定散二心をひるがえし
貪瞋二河の譬喩をとき
弘願の信心守護せしむ

(善導禪師 第八首)
『高田勤行聖典』一七九頁

現代語訳

善導大師は十方の諸仏に証明を求めて、『観経疏』を著し、人々が定散自力の心をなげうって他力の信に達するよう、貪愛の水の河と、瞋憎の火の河のたとえを「散善義」に説き、弥陀の願力より賜わる信心をお守りになる。(一)法主著『註解国宝 三帖和讃』六八頁)による。

この和讃は、善導大師が私たちのような煩惱具足の凡夫をお目当てにして、他力の救いの道へと導いていかれる一首です。
お浄土へ往生するには修行とか積善とか念仏三昧と

かそれなりの因縁が必須です。『観無量寿経』には、定善と散善という自力修行の二心が説かれています。

「定善」とは、精神統一をして、自分の心を善に導こうとする修行です。「息慮凝心の善」といいます。たとえば、その一例として「太陽を直視して耐えよ」という修行があります。もし私がこの行をしたら、すぐ目がつぶれてしまいます。

次は「散善」です。これは日常生活の中で善を積み重ねていく修行です。「廃悪修善の善」といいます。しかしこのような自力修行では、悟りの因縁を心に植えることは到底不可能であることを教えられました。

そして「貪瞋二河の譬喩」を説かれました。いわゆる「二河白道」のお話です。これは、私たちの心の煩惱の代表である「貪欲心」と「瞋憎心」の二心をとりあげて、水火の二河に譬えて、その恐ろしき、怖さを解説したものです。

「貪欲」は、どんなものでもわがものにしてしまおう

とする欲心のことで、これを水の河に譬えて、ひとたび荒れ狂うと、すべての財を全部下流に流してもって行ってしまおうという。

「瞋憎」とは、一つまちがうと前後の見境いが見えなくなつて、どんなことでも仕出かしてしまうという。これを火の河に譬えて、一度燃え上がってしまうと、すべてのものを焼き尽してしまうというおそろしいわが心を象徴した物語りです。

従つて、このような煩惱心を持つた者の自力修行では、どんなに努力してみても二河の前に立たされた行者です。すから、行く先を見失つて立往生してしまうというのです。

物語りは、この境を「三定死」と教え「行くも死、とどまるも死、かえるも死」という絶対絶命のところに行者が立つのです。まさに自力の極限です。するとたちまちに東岸から人の勧める声が聞こえ「汝、決定して二河の中間にある白道を行け」と。又西の岸から人あり。喚うていわく「汝、一心に正念にして

白道をただちに渡つて来たれ」と。

この両者の声を信じて行者は白道を渡つて、浄土へ往生したという。

これが他力による浄土往生の道程であります。
(鈴鹿市 随願寺住職)



御本山絵所

絵所頭 安川如風

世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士)造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

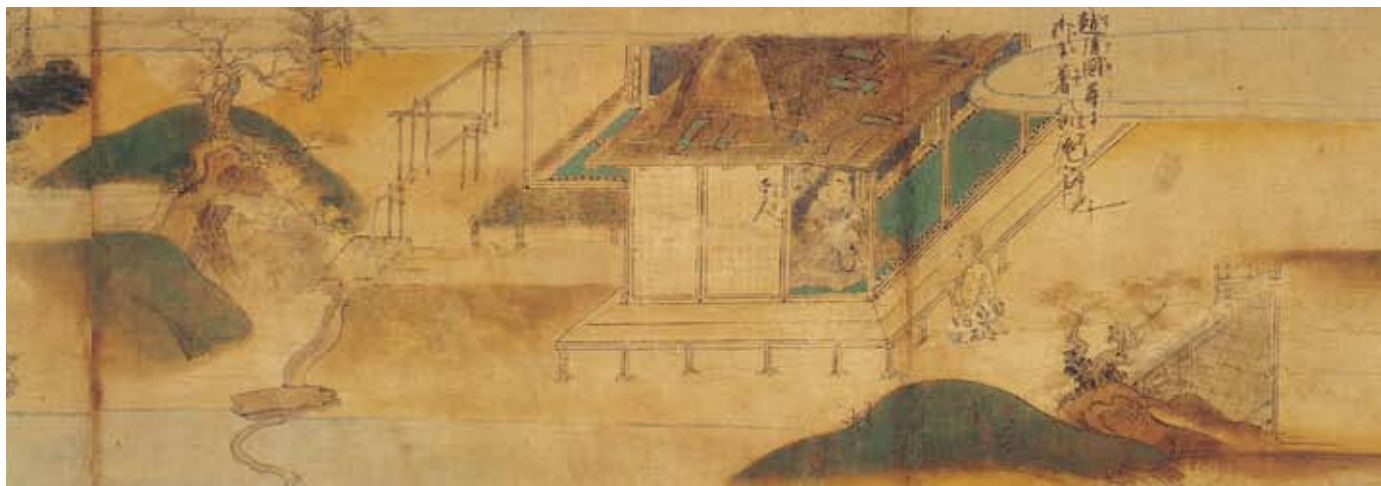
津市栗真小川町 869-77
TEL 232-7453
FAX 232-7453



ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク



親鸞聖人が流罪先の越後国の国府(今の県庁)へ落ち着かれた場面。

親鸞聖人のご生涯シリーズ⑫

非僧非俗の生活 関東へ

越後における七年間の親鸞聖人の流人としての具体的な生活をしるした記録は残されていませんが、とても厳しいものであったことは想像に難くありません。そこで出会われたものは、辺地の荒涼とした自然であり、富や権力などとはまったく無縁に、人間としての命を赤裸々に生きている人々のすがたでした。そこには、善根を積むことはおろか今日一日を生き抜くことに精一杯で、生きのびるためにはたとえ悪事とされていることでも、あえて行わなければならぬ悲しさをかかえた人々の生活がありました。

聖人はこの思いがけぬ逆縁のなかで、すこしもひるむことなく、いよいよ自己をみつめ、信心を深めていかれました。そして「非僧非俗」の境地を自覚し、「愚禿親鸞」と名のられました。聖人が「僧に非ず」といわれ

たのは、国家権力による僧ではなくなったことをあらわし、「俗に非ず」とは、律令僧のかたちはとらないけれども、内には深く如来を信じ、外にはその喜びを、何はばかることもなく伝えてゆける僧侶になられたということの表明であります。

さて、聖人の結婚については諸説があり、定かではありませんが、ひとつは、すでに京都で結婚されていたというもの、今ひとつはこの越後において結婚されたという説などがあります。しかし、少なくともこの越後時代には、この地の豪族であった三善為教の息女、恵信尼と名乗る女性との間に、幾人かの子供をもうけられました。文字どおり、公の肩書きを持たない丸裸の念仏者となつて肉食妻帯を生きていかれたのです。そして、その生活のなかで聖人は、流罪という逆縁を転じ

て、都を遠く離れた民衆に如来の本願を伝える良縁とし、「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」というみ教えを、いよいよ確かなものとして心にきざまれたのでした。

流罪の身となつて五年、建暦元年(一二二一年)に親鸞聖人は法然上人とともに流罪が赦免となり、これで、晴れて師と再会できると喜んだのもつかの間、京都へ帰られた法然上人が亡くなられたという知らせを受け、聖人はとても悲しまれましたが、もはや師なき都へ帰ることを思いとどまられました。それは、師のご恩に報いる道は本願念仏の教えを縁ある人々に伝える以外にはないと気づかれたからです。

悲しみから新しく燃えあがった決意は一層つよくなり、妻子を伴つて越後を去り関東へとその足を向けられたのです。ときに聖人四十二歳のころのことでした。

(教学院第三部会)

武田龍精編 往生論註出典の研究

論大綱／総説偈文／観察門／廻向門／解義総説／起観生信／観察体相／淨入願心／善巧撰化／離菩提障／順菩提門／名義撰対／願事成就／利行満足／総結釈の論集 参考文献略記一覽外 定価9000円税込

林 智康著 親鸞聖人と建学の精神

知恩報徳と常行大悲／前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪へ／世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ外 定価1300円税込

北畠昇融著 仏道を学ぶ

定価1680円税込 普賢保之著 本当の幸せとは

— 自己を見つめて — 定価1000円税込 無名会同人編 仏と人 47

定価410円税込 松岡秀隆著 蓮如上人の門弟の人々

定価2500円税込 山崎龍明著 歎異抄とともに

定価1050円税込

600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 0755-33711
FAX 0755-33711
振替 015020514903361

本山諸行事

◆修正会

一月一日～三日
一日の日中のおつとめでは、第十八代円上人の「緋（ひもとき）の御書」が一年に一度だけ拝読されます。

一月一日

晨朝 午前六時三十分より
御参廟 晨朝に引き続き
日中 午前十一時三十分より
お説教、お勤めに引き続き御影堂にてご聴聞下さい。

一月二、三日

晨朝 午前七時より
日中 午前十一時三十分より
お説教、お勤めに引き続き御影堂にてご聴聞下さい。

◆報恩講

「お七夜」とも申します。親鸞聖人のご遺徳を偲び、ご恩報謝の法要です。平成二十二年は聖人没後七百四十八年目にあたります。

一月九日から十六日

晨朝 午前七時
日中 午前十時三十分
速夜 午後二時
初夜 午後四時三十分

(九日は速夜、十二時三十分よりはじまります。十六日は日中までです。)

お説教、お勤めに引き続き御影堂にてご聴聞下さい。
大講堂のお説教は十二時三十分よりはじまります。

その他の行事

一月九日～十六日

献書展 廊下

一月十日～十五日

生花展 御対面所

一月九日～十五日

呈茶 有慶堂

一月九日～十六日

「守ろうみんなの文化財」

ポスター原画展

安楽庵見学

九日 午後二時

十日～十五日

午前十一時、午後二時

十六日 午前十一時

宝物館特別拝観

九日 十二時～午後三時

十日～十五日

午前十時～午後三時

十六日 午前十時～午後一時

宝物館宝物説明

十日～十五日 午後一時より

お尋ねコーナー

宗務院ロビー

午前十時～午後三時

編集後記

十二月八日と申しますと、お釈迦さまが菩提樹の下でおさとりを成就された日です。

インドのジャングルの中、ひたすら瞑想にふけられました。寝食もわすれ、お体はやせ細られたようです。これ以上ご自身の心身を過酷な状態にさらしても意味がないと気づかれ、近くの菩提樹の下で心身を整えられて四十九日の間瞑想に入られておさとりを成就されました。その日が十二月八日です。明けの明星を見て覚醒されたと言ひ伝えられています。そのうち、出世本懐(お釈迦さまの本当の目的)として『無量寿経』をお説きになられ、人類に阿弥陀さまの慈悲をお知らせいただくのです。

さて、一面上段の挿絵は、法然上人の庵を親鸞聖人が訪ねている場面です。まだ聖人の衣は、比叡山の僧形をされておられます。比叡山での修行生活に疑問を感じておられる聖人のご心境が垣間見られる場面です。そして「よき人」法然上人との出遭いが「雑行を捨てて、本願に帰す」と回顧される大きな転換点となったのです。

偉大なお二人のご生涯における大きな転換が人類にもたらした恩恵は、はかりしるることができません。

(F)

京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

小堀

本店 / 京都市下京区烏丸通正面 上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
石匠位認定店
全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式会社

ストーンズ 石仙

(旧)有山本石材店

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114
サイコーヨイシ

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)
本山会席

各種献立よりお選びいただけます。
◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)



人気商品 高田本山流 精進料理

お問い合わせ・ご注文は 高田本山 精進料理部 ☎059-232-6079

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株

(石に御用の方は) イニニョ
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

御影堂落成慶讃大法会

平成22年5月13日(木)～17日(月)

平素は、本山護持のため、ご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。8年の歳月をかけ平成大修理を行いました御影堂の落成慶讃大法会は、平成22年5月13日(木)から5月17日(月)までの5日間(前夜集会を含め延べ6日間) 厳修いたします。

期間中は法要はもとより演奏会・記念講演等多彩なイベントがあります。希少なこの慶事に檀信徒の皆様がそろってご参詣いただきますようご案内申し上げます。

◇前夜集会

12日 16:00～ 岩手県選擇寺 花笠音頭、津軽三味線
18:00～ 柳家小三治一門落語会

◇法要

13日 報恩感謝法会(10:00～)
記念式典(11:00～) 午後法会(15:00～)
14日、15日 午前法会(11:00～) 午後法会(15:00～)
16日 御参廟(9:00～)
午前法会(10:00～) 午後法会(15:00～)
17日 午前法会(11:00～) 午後法会(15:00～)

◇イベント

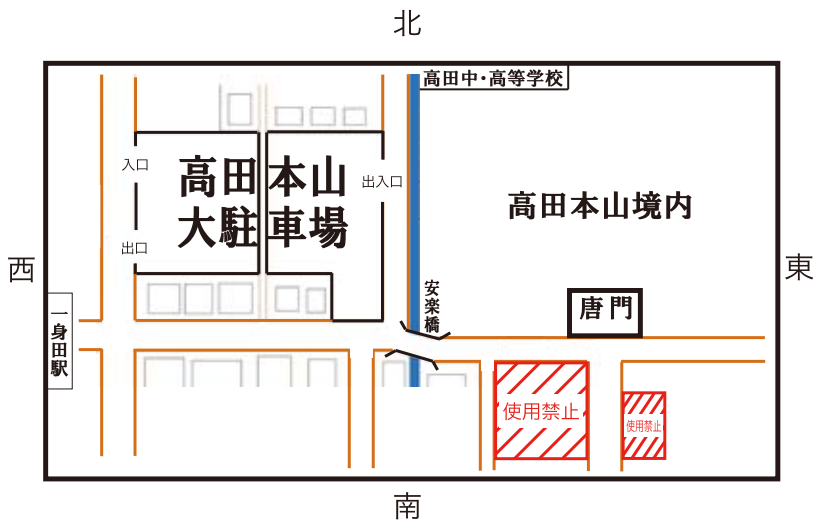
13日 13:00～ 講演 岡田 卓也
16:30～ 琵琶弾き語り 上原まり
14日 13:30～ 雅楽 東儀 秀樹
16:30～ 講演 小山 観翁
15日 13:00～ 講演 養老 孟司
16:30～ 横笛 藤舎 名生
16日 13:30～ 講演 〈出演者未定〉
16:30～ 胡弓の会「韻」(ひびき)
17日 13:00～ 講演 藤田 宏達

◇その他

◎庭儀式(稚児練り)
15日～16日 10:00～11:00
◎安楽庵における呈茶
14日～16日 10:00～15:00 ほか



御影堂落成慶讃大法会事務局
TEL 059-236-4025



駐車場のご案内

以前より、皆様にご利用いただきありがとうございました。唐門前の駐車場は使用できなくなりました。
この度、本山境内西側にご置いた駐車場に隣接する土地を駐車場として利用いただけるようになりました。下記の地図のとおりとなりましたので、今後、本山にご参詣いただく際には本山西側の大駐車場をご利用下さいますようお願いいたします。

宗旦古流呈茶

そ う た ん こ り ゆ う て い ち ゃ

◎呈茶券(五百円)は宗務院・進納所・納骨堂でお求め下さい。
平成二十二年二月九日(土)から十五日(金)
午前十時から午後三時まで
本山内有慶堂にて

寺院名



- 柳葉菩提樹金紋赤地菊桐唐草模様折込
- 記念文字入り

改めて落慶の御志納下されました方へ記念品としてお渡しします。



【大】巾約60cm 【小】巾約43cm

申し込みは直接もしくは所属のご寺院様経由で
御影堂落成慶讃大法会事務局
TEL 059-236-4025まで。

来る御影堂落慶大法会の記念品として打敷を取り扱い致しております。本品は落慶記念の文字入り打敷で朱色、地模様は柳葉菩提樹紋を入れております。落慶大法会の期間中、団参でお参りいただきました方はもとより、現在、お志として三,〇〇〇円以上いただきました方へもお渡しを致しております。枚数は大・小合わせて五,〇〇〇枚の限定品です。記念打敷は御同行御内仏(御仏壇)用で前卓のサイズに合わせお選び下さい。

御影堂落慶記念品打敷